

令和8年度

入学試験問題（中学校）

A日程

国語

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

次の《文章Ⅰ》・《文章Ⅱ》を読んで、下の問いに答えなさい。なお、出題の都合上、本文を一部省略したところがあります。

《文章Ⅰ》

ところで、自分にとって居心地のよいトイレとはどのようなものなのか、考えたことはありませんか？

私は、トイレにもっとも大切なことは「安心」だと思います。うんちやおしっこをすることは、生きていくために欠かせないことです。うんちやおしっこをすることを「排泄」といいます。排泄は、体がリラックスしているときにはたらく神経が担当しています。ですから、ものすごくきんちようしていたり、あわてていたりするときは、うんちをしたくなくらいなのです。動物であれば、敵にねらわれているようなときにうんちをしたくなったら危険だからです。うんちをしたくなるタイミングをよく思い出してみてください。ごはんを食べたあとにくつろいでいるときや、マンガを読んでいるんびりしているときなどに、トイレに行きたくなりませんか？

どんな環境を「安心」と感じるかは、一人ひとりちがいます。静かなところでないで安心できない人もいれば、多少さわがしいほうが落ち着くという人もいます。どのようなトイレだと安心できるのか、みんなに意見を聞いてみるといいですね。

① トイレには「安心」が必要であること、そして、その「安心」は一人ひとりちがうということをお話ししました。では、学校のトイレや駅のトイレ、公園のトイレなど、みんなを使うトイレの「安心」は、どのようにつくればよいのでしょうか？ ここからは、みんなを使うトイレについて考えてみたいと思います。

まず、「みんな」とは、どのような人のことでしょうか？

子供、大人、お年寄り、車いすを使う人、視覚障がいがある人、オストメイト（病気や事故などが原因で、人工肛門や人工ぼうこうを使っている人のこと）、ベビーカーを使う人、外国人など、様々な人がいますね。みんなを使うトイレは、すべての人にとって使いやすいものである必要があります。

ここで大切になってくるのは、それぞれの人の意見をよく聞くことです。【A】、お年寄りは目が見えにくくなるので、流すボタンなどが大きいほうがよいです。車いすを使用している人は、車いすで入れる広さが必要です。視覚障がい者は、流すボタンやトイレレットペーパーの位置がわかりやすいことが必要です。ベビーカーといっしょに入れることが望ましいでしょう。外国人にとっては日本語の説明だけではわかりにくいのです。

さて、もう気づいた人もいますが、これらの中には、②など、共通のポイントがあります。それらを先に解決することがよいと思います。

問一 【A】～【D】に当てはまる語を、それぞれ次のうちから選んで記号で答えなさい。ただし、同じものは一回しか使えません。

- ア また イ すると  
ウ しかし エ たとえば

問二 部①とありますが、なぜですか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 家のトイレは安心だが、学校や駅などのトイレも安心できる場所にすべきだから。  
イ うんちをしたくなる神経はたらくのは、体がリラックスしているときだから。  
ウ 人間は動物とちがいで、敵にねらわれていてもうんちをしたくなくなってしまふから。  
エ 静かで安心できる場所で落ちついてうんちをするところが、健康につながるから。

問三 ②に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 〈明るさ〉や〈よこれにくさ〉  
イ 〈大きさ〉や〈入りやすさ〉  
ウ 〈新しさ〉や〈かいてきさ〉  
エ 〈広さ〉や〈わかりやすさ〉

しかし、それ以外はほうっておいていい、という意味ではありません。大きな音や強い光が苦手な人もいますし、オストメイトのように専用の設備が必要な人もいます。また、娘さんがおじいちゃんを介助している場合もあれば、息子さんがおばあちゃんを介助している場合、心と体の性別がちがう人もいます。このような人たちにとっては、性別に関係なく自由に入れるトイレが必要です。

このような、だれもが使いやすいトイレにするための設備は、みなさんが変えていくのはむずかしいかもしれませんが、【B】、トイレを気持ちよく使うために、みなさんにもできることがあります。それは、マナーを守ることです。ここでは、すぐにできる三つのマナーを紹介します。

まず一つ目。それは、床をよごさないことです。小便秘や和式便器を使うときはなるべく便器に近づいて、おしっこが外にはねないようにしましょう。もちろん、うんちもはみ出してはダメですよ。もしはみ出してしまったら、すぐにそうじをしてください。車いすを使っている人は、床がよごとれていると、車輪についたよごれがグルツと回って手の方に来て、手やそでがよごとれてしまいます。また、介助犬といっしょに行動している場合、人がトイレを使っている間、介助犬はふせをして待つことになります。大切なパートナーである介助犬がよごれた床で待つことになるのはかわいそうですよね。

二つ目は、手洗器のまわりを水でよごさないことです。手を洗う理由は、手についたウイルスやばい菌を洗い流したり、わるさをする力をなくさせたりするためです。水があちこちにとびはねていることは、ウイルスやばい菌もとびはねていることになります。そんなのいやですよ。【C】、手洗器のまわりが水びたしだと、身長の高い子どもや車いすを使っている人は、そでが水でぬれてしまいます。それに、手洗器の横に荷物を置きたくても、びしょびしょだと置けません。手はゆつくりとていねいに洗って、水がとびちらないようにしてください。

三つ目は、ドアについてです。使用中はかぎをかけるのをわすれないようにしましょう。ほかの人が、うっかり開けてしまうと、使っている人も開けてしまった人も、気まずい思いをします。また、車いすの人などが使用するボタンでドアを開閉するトイレを使ったときは、使用後にトイレの外側についている「閉」ボタンをおして閉めてください。トイレの内側にある「閉」ボタンをおして外に出してしまうと、そのトイレは「使用中」と表示されてしまいます。【D】、次にトイレに来た人は、だれも使っていないのに、ずっと待つことになります。実は、このようなことが意外に多いのです。

うんちは、健康のパロメーターです。健康のためには、毎日、安心して、すっきりとよいうんちを出すことが大切で、そのためにはトイレの環境がとても重要です。とくに、大勢の人が使うトイレでは、だれにとっても使いやすい設備を整えることはもちろんですが、一人ひとりが次にトイレを使う人のことを考えて、ちょっとした気くば

問四 部③とありますが、なぜ「床をよごさない」ようにする必要があるのですか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア そうじに時間がかかってしまい、その間、車いすを使っている人や介助犬をつれている人はトイレを利用することができないから。

イ 車いすの車輪がよごれた床ですべて危険だったり、介助犬がよごれた床でふせをするのをいやがったりするから。

ウ 車いすを使っている人の手や服のそでがよごれたり、介助犬がせいけつでない床にふせて待つことになってしまったりするから。

エ 車輪についたよごれで車いすがこわれてしまったり、大切なパートナーである介助犬がよごれた床にふせて病気になるてしまったりするから。

りをする必要があります。学校や公園などのトイレを使うときは、ぜひ、そのことを思い出してください。

注1 バロメーター——ある物事の現在の状態を指し示す目印となるもの。

## 《文章Ⅱ》

ところで、世界中のたくさんの人が利用する羽田空港旅客ターミナルは、イギリスのSKYT-RAX社が実施する国際空港評価において、空港のせいけつさなどの部門で、五年連続世界一位を獲得しています（二〇一六—二〇二〇年）。

五年連続世界一位というのはものすごい記録です。世界一せいけつな空港のトイレには、どのようなくふうがされているのか気になりますよね？ 全自動おそうじロボットがいるのでしょうか、それとも、よごれがつかないひみつの素材を使っているのでしょうか。何か特別なことがありますよね。

そこで、実際に空港のトイレをそうじしているスタッフの方々に話を聞いてみました。すると、意外な答えがかえってきました。世界一になるためにもっとも大切にしていることは、「よごれがなくなったときに対応するスピード」だったのです。これには二つのポイントがあります。一つは、「よごれを発見してからいかに早くそのよごれをなくすか」ということです。へよごれを発見してから一〇分以内に対応する」という目標が決められていて、これまでの実績では平均九分だそうです。空港のスタッフがよごれを発見した場合、すぐに管理室に連絡します。そこから清掃責任者に伝わり、担当者が現場にかけつけるといいう仕組みです。

もう一つのポイントは、「できるだけ早くよごれを発見すること」です。そのためには、発見する人の数が一人でも多いほうが有利です。羽田空港では、管理スタッフ全員、「自分が清掃員」という姿勢で取り組んでいます。発見するだけではなく、スタッフ全員がつねにごみ袋を持っていて、かんたんなよごれやごみであれば、その場で対応し、トイレなどのよごれの場合は、先ほどの仕組みで担当者に連絡します。

トイレに限らず、多くの人が使う場所は、つねにせいけつになっていると、みんなが自然ときれいに使うようになるので、よごれにくくなります。ぎやくに、よごれたままにしておく、より乱暴に使われるようになるので、どんどんよごれていきます。そうならないようにするくふうが、早期発見・早期対応だったのです。

私たちはつい、技術や道具、特別な何かにたよろうとしがちですが、大事なものは、その場をきれいにしたいと思う気持ちと、一人ひとりの行動だったのです。

（文章Ⅰ・文章Ⅱともに、加藤篤『もしもトイレがなかったら』による）

問五 部④はどのようなことですか、四十字以内で抜き出しなさい。

問六 あるクラスでは、「自分たちがトイレをきれいにするためにできること」について話し合いました。《文章Ⅱ》の内容をふまえた上で、最も筆者の考えに合った意見を、次のうちから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 学校のトイレそうじの道具は古くなっていて、数もかざられているので、新しくして使いやすい道具をたくさん買ったらいと思います。

イ トイレのかべやドアにきれいな絵を描いたら、明るい雰囲気になるし、みんな絵をよごさないように気をつけてきれいに使うようになると思います。

ウ 「トイレをよごさないようにする」という規則を新しく作って、よごしたらきびしく注意されるようにすれば、きれいに使うようになると思います。

エ そうじ当番だけにまかせるのではなく、だれもがそうじ当番のつもりでいて、よごれを見つけたらすぐにそうじするようにしたらいいと思います。

次の文章は、榊原隆介『おおづちメモリアル』の一節です。「晋作」は「泰一」「明子」とともに八月初めの渋川海水浴場を訪れています。「泰一」はこの五月に大阪の堺から転校してきたところ、「明子」は「晋作」のいとこです。これを読んで、下の問いに答えなさい。

小魚でもすくって明子を喜ばせてやろうと、膝まで海に入り海中をのぞく。水面に反射した太陽の光がちらりと晋作の瞳を打った。数匹の小魚の影が音もなくさつと散った。

その時、「晋作、行くぞー」と泰一が声を張り上げた。気合いのこもった大人びた言い方だった。泰一はなだらかな砂浜を駆けおり始めた。スピードがどんどん加速されていく。腕を大きく前後に振り、膝を高く引き上げている。まるで五十メートル走を競っているかのようなフォームだ。

浅瀬に走り込むと、二つ、三つと小さな水しぶきが上がった。泰一は、両腕を前に突き出してジャンプし、体を海にたたきつけた。白い泡の帯をひいて水中を突き進む。すぐに数メートル先に浮上すると今度はクロールで泳ぎ始めた。小気味いいバタ足の音がだんだんと飛び込み台に向かって遠ざかっていく。

「すごいんじゃないか、泰一君は。……小学校の六年生とは思えないなあ。大阪の子がなんであんなに泳げるんじゃないか？」

① 明子が感嘆の声を上げた。晋作は自分に話しかけているのかと思っただけで振り返った。しかし明子の顔は泳いでいる泰一の方に向いていた。両手をひたひたにかざしてその姿を追っている。独り言ならばもつと小さな声で話せばいいものをと、明子の言い方に少々不満を覚えた。

明子がびびくりした泰一の泳ぎの秘密を晋作は知っていたのだが、それを進んで話そうという気にはなれなかった。泰一の走り飛び込みを、あまりにも深く感心している明子の様子がおもしろくなかったからである。

もつとも、泰一がすごいのは何も泳ぎだけではなかった。大阪から転校してきてまもなくの六月に行われた体力測定では、ボール投げで四十メートル以上を投げ、六年生では岡山県でもトップクラスになるだろうと騒がれたものだ。また、社会の授業では、二代目となる今の国連事務総長の名前は？との先生の質問に「ハマーシヨルド！」と即座に力強く答え先生をいたく感心させたという。

その話を耳にした時、晋作は「国連……」などという質問の内容そのものが理解できなかったが、都会の子は何でもよく知っているかと恐れ入ったものであった。

問一 部 a「大目に見よう」、b「つつけんどん」、c「これ見よがしに」、

d「屈託のない」の本文での意味として適当なものを、次のうちからそれぞれ一つずつ選んで記号で答えなさい。

a 「大目に見よう」

ア 注意したい気持ちはあるが、見て見ぬふりをしようということ。

イ 細かいことは気にせず、寛大な気持ちで受け入れようということ。

ウ 相手の誤りを厳しくとがめた後に許そうということ。

エ 物事を客観的な広い視野で冷静に判断しようということ。

b 「つつけんどん」

ア 興奮した勢いで元気よくしゃべる様子。

イ 不機嫌そうにそっけなくする様子。

ウ 驚いたあまり言葉が出ない様子。

エ 理屈っぽく長々と説明する様子。

c 「これ見よがしに」

ア 自信がないことを隠すためにわざとひかえめにふるまうこと。

イ 他人の目を気にせず自然体で行動すること。

ウ 得意げに意識的に見せつけるようにすること。

エ よく見てもらうために丁寧に丁寧に説明しようとする事。

d 「屈託のない」

ア 飾らず、明るくて悩みがなさそうな様子。

イ 何事にも興味を持たず、ぼんやりとしている様子。

ウ 自分の意見を強く押し出して主張する様子。

エ 周囲の空気を読まずに好き勝手にふるまう様子。

大阪からやって来て、運動ができ頭もいいらしい。しかもひとつ年上という理由で、晋作にあって、泰一は憧れに近い存在と言ってもよかった。

しかし一方では、わずかひとつだけの違いという意識も少なからずあり、特に、晋作のホームグラウンドとでもいふべき洪川の海では、自分が優位に立たなければという思いが強かったのである。

晋作は、明子の泰一の走り飛び込みに対する賞賛の声を耳にして、小魚などをのんきに追っている場合ではないと気を引き締めた。自分も泰一に負けない飛び込みができることを明子に見せなければならぬ。そう思いひとまず海から上がった。すると明子が目を大仰に見開いてにっこりと微笑んで言った。

「あれ、晋ちゃん、泳ぐんやめたん？」

晋作は、明子が泰一をくん付けて呼び、自分に対してはちゃん付けて話しかけてきたのに満足した。明子を見直し、さきほどの態度を大目に見ようという気にもなりかけたが、つい口に出たのは心にもないつつけんどんな言い方だった。

「いや、これからじゃ。準備運動をまだしとらん」

「そんな、真面目にせんでも……。ここまで自転車こいできたんじゃから、準備運動なんかいらんが。泰一くんは何もせんと飛び込んでいったのに……」

明子は晋作のこみいった胸の内など気にもしていない様子である。太陽光線が目に入るのか、目を細めて晋作を見上げている。首にかけた白いタオル、胸に学校のマークが入った水色のシャツ、膝までまくりあげられている紺のジャージ。そんな無造作なスタイルの明子が晋作には何ともまぶしく感じられた。

それにしても、明子はこの先どうするのだろうか。それを問いただそうとして、はたと困った。さて、明子をどう呼べばいいものか……。もう『アキ姉チャ』ではおかしいだろう。かといって『明子』と呼び捨てにしては叱られそうだし、『明子さん』などと言えば笑われてしまうに違いない。首を左右や前後に動かし、時間かせぎをしながら考えた。ほどなく無難と思われる呼び名が浮かんだ。平凡ではあったが、生まれて初めて声に出す呼び方であった。晋作はやや緊張ぎみに口を開いた。

「明ちゃんは、これからどうするん？」

「うち、トレーニングの途中じゃし、もうちょっとだけここにおいて、そうじゃなあ、久しぶりに向かいの水族館に寄って……アシカでも見てから家に帰ろかな」

問二 部①とありますが、これを聞いた「晋作」についての説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 「明子」の声に気づかず、自分の小魚取りに夢中になっていたため、「泰一」への感心の言葉には特に反応しなかった。

イ 「明子」が自分に話しかけたのかと思っただが、「泰一」についての言葉だったため、軽く失望し、嫌な気持ちになった。

ウ 「明子」が自分ではなく「泰一」に声をかけたことに安心し、「泰一」の能力を誇らしく思って微笑ましく見つけた。

エ 「明子」の言葉に刺激され、自分も「泰一」に負けまいと泳ぎ出したが、「明子」の応援を期待し過ぎて落ちつきを失った。

問三 「晋作」が「泰一」に対して抱いている思いの説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 運動も勉強も得意な「泰一」に強く憧れており、自分との能力差はつきりと認識して、素直に敬意を抱いている。

イ 都会から来た「泰一」に対して強い対抗心を抱いており、いつか勉強でも運動でも勝ちたいという思いを抱いている。

ウ 優秀な「泰一」に対して憧れを抱きつつも、年齢が一つしか違わないので、張り合いたいという思いも抱いている。

エ 何一つ「泰一」のことを特別にすごいとは思っておらず、ただの友人であるという認識以外の関心を抱いていない。

問四 部②とありますが、その理由の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 突然「明子」に話しかけられて戸惑い、良い返事の内容を慎重に選ぶうとしていたから。

イ 飛び込みの直前で緊張していたため、体を動かして気持ち落ちつけようとしていたから。

ウ 「明子」に話しかけることが恥ずかしく、その様子を周囲の人に気づかされたから。

エ 「明子」をどう呼べばよいか迷っており、呼び方を間違えて気まずくなるのを避けたから。

明子は軽くそう言つて、わざとらしく小首をかしげた。

(家に帰る……) 晋作の意気はたちまち萎えてきた。しかし、そんな心の内を明子に悟られるわけにはいかない。明子の行動など気にも留めていないというふうには、上体をぐるぐる回す運動をこれ見よがしに繰り返した。

そのあと、泰一以上の助走路を確保するために砂浜の一番高いところに立った。前方の海に向かつてしかと目を見開く。泰一は飛び込み台に腰をかけ両足をぶらぶらさせて晋作の動きを見守っている。明子は浜の途中に腰を下ろして晋作のスタートを待っている。

よいい、ドン！自分で小さく声をかけ走り始める。泰一の飛び込みをイメージしつつ浜を駆け下りる。しかし、泰一ほどにはスピードが上がらない。もともと、走るの苦手な方なのである。しかも、助走路を長く取りすぎたせいも、途中で息があがってしまいそうになる。

それでもなんとか歯を食いしばって明子の前を駆け抜け、やっこの思いで海辺にたどりついた。ところが要領の悪いことに、浅瀬の砂に足をとられ、飛び込みのタイミングを狂わせてしまった。

晋作は、飛び込むというよりは倒れ込むようにして海に身を投げた。思いがけないフォームの乱れから、不覚にもぐくりと水を飲みこんだ。塩辛さで胸が焼けて息苦しい。鼻の奥に水が入りこんでひりひりとして痛い。(失敗じゃった……明ちゃんは、下手くそな飛び込みを見て笑つとるじゃろ……) 海中で身悶えして苦虫をかんだ。

浮上した晋作は、一息つきたいところをやせ我慢して、泰一と同じクロールで飛び込み台に向かった。窒息しそうな苦しさに耐えて泳ぐ。やがて、ほんやりと、海底に伸びている飛び込み台の白い鉄骨が視界に入ってきた。あとわずかだ、死に物狂いで水をかく。

やっこの思いで飛び込み台に手が届いた。顔を上げ、思いつきり空気を胸に吸い込むと、息を整える間もなく浜を振り返った。膝を抱えて座っていた明子が、首のタオルを右手にとり、それを手に巻きつけて頭上高く振り回した。浜辺にぱつと白い花が咲いたか見えた。晋作は、明子の屈託のない動きを見て胸を撫でおろした。気を取り直し、急いでではしこを登った。飛び込み台の上に立つと、

「失敗した……走る距離がちよつと長すぎたんじゃ。苦しゅうて足ももつれたし飛び込むタイミングも合わなかった……水も飲んだし……」

息を切らしてこと細かく失敗の内容を泰一に報告した。泰一以上に上手なところを見せようと自分の浅はかさを反省してのことだった。大粒の水滴が、日に焼けた晋作の体からぱたぱたと音を立てて流れ落ちている。

問五 部③とありますが、その理由の説明として最も適当なものを、

次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「明子」がこの場に残ると聞いて緊張し、自分の飛び込みに自信を持ってなくなったから。
- イ 「明子」と一緒にいられる時間が残りわずかであることに對する寂しさを感じたから。
- ウ 「泰一」の能力を改めて思い出し、自分との差を痛感してやる気を失ってしまったから。
- エ 「泰一」にばかり関心を持っている「明子」に、自分が軽んじられていると感じたから。

問六 部④とありますが、この時の「晋作」の心情の説明として最も

適当なものを、次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「泰一」を上回る姿を「明子」に見せたかったがうまくいかず「明子」の反応が気になったが、タオルを振る「明子」の姿が浜辺にぱつと咲く白い花のようにまぶしく映り気持ちや和らいだ。
- イ ホームグラウンドなら「泰一」に勝てるに違いないと思っていたが失敗し、「明子」にどう思われたか不安になったが、白い花が咲いたような「明子」の美しい笑顔を見て淡い恋心が芽生えた。
- ウ 「泰一」のフォームを完璧に真似しようとイメージしながらスタートし、「明子」の感想を楽しみにしていたが、「明子」が負けをイメージさせる白いタオルを振っていたので落ち込んだ。
- エ 走るの苦手ながらも歯を食いしばり良いところを見せたかったが、準備不足をからかうような「明子」の姿から逆に「泰一」に再挑戦しようという闘志が燃え上がった。

「そんなことあらへん。えらい迫力やった」

泰一は事もなげに晋作の憂い<sup>うれ</sup>を打ち消して立ち上がった。そして海に向かって姿勢を正すと、両手をあげ深呼吸を始めた。

「イチ、ニイ、サン、シイ……」

泰一の肩甲骨<sup>けんこうこつ</sup>の出っ張りが、腕の動きに合わせてダイナミックに動いた。

榎原隆介『おおづちメモリアル』岡山・吉備の国「内田百聞文学賞」受賞作

問七 本文の内容の説明として適当でないものを、次のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 飛び込みに失敗した「晋作」は、くやしきから泳ぐのをやめようとしたが、「泰一」の励まし<sup>ほ</sup>の言葉を聞いて再びやる気を取り戻し、最後まで泳ぎ切った。

イ 「晋作」は、助走路を長く取りすぎたことで途中で息が上がり、飛び込みのタイミングを誤ってしまい、思うようなフォームにならなかったことを後悔していた。

ウ 「明子」の応援するような無邪気な動作を見て、「晋作」は自分の飛び込みが失敗に終わったことを受け入れ、安心した気持ちになった。

エ 飛び込み台にたどりついた「晋作」は、失敗の詳細を「泰一」に素直に伝え、未熟で浅はかな自分を反省している姿を見せた。

部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 解熱のために薬を飲んだ。
- ② 生死の境をさまよう。
- ③ 運輸業を営む会社は多い。
- ④ 山頂で朝日を拝む。
- ⑤ 寒さが骨身にこたえる。
- ⑥ 夕食会にシヨウタイされた。
- ⑦ 係が出口へとミチビク。
- ⑧ 運動のシユウカンをつける。
- ⑨ 五輪のセイカリレー。
- ⑩ 彼の演技はクウゼンゼツゴの名演だ。